

		SAPIX	日能研	四谷大塚 早稲田アカデミー	浜学園 希学園
カリキュラム 全体の特徴		<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの学年も扱う範囲が非常に広い。</li> <li>発展的内容が多数含まれるので、2学期の復習は講習前に済ませておきたい。</li> <li>休み明けすぐに1月組分けテストが実施されることに注意。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス帯によって使用するテキストが分かれ、問題レベルの差がかなりある。</li> <li>4、5年生は9月以降の復習となっている。</li> <li>6年生は12月から始まる入試対策講座の一環という位置づけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム自体は既習単元の復習が中心だが、担当講師やクラスによって指導の重点単元が異なる。</li> <li>4、5年生は次の学年を意識して授業のテンポが上がる。</li> <li>扱う単元が多いので段取りよく復習していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい分野・単元の講義～問題演習、解けるかどうかの確認まで、塾ですべてをやってくれる</li> <li>塾への滞在時間は長い</li> <li>冬期講習期間は17時以降の一般クラス(平常授業)は行われない。</li> </ul>
4 年 生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生になってからの最重要単元を中心に扱う。</li> <li>復習単元についても難易度がかなり上がる。</li> <li>理科は「電気」の1テーマを掘り下げ、社会は各種工業のイメージを作り、5年内容への橋渡しを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月以降の学習内容を復習する内容になっている。</li> <li>授業回数、時間数は短めで負担の少ない講座。</li> <li>復習単元ということで淡々と授業が進む傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座の主眼が「新5年生」の意識付けにある。</li> <li>4年生内容の重要単元・知識を大きく振り返りながら、1月以降の学習内容に軽く触れる構成。</li> <li>算数は5年生の重要単元である「速さ」の基本を扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3科目とも解説授業が中心</li> <li>算国は夏以降に平常授業で扱った内容の復習。</li> <li>理科は、浜学園は化学物理、希学園は天体と分野は異なるが小5を見ずえた内容である点は同様。</li> </ul>
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み前の単元を多く扱うため、2学期の復習は家庭で行う必要がある。</li> <li>理社は講習内容の理解度が5年以降の成績を左右する。</li> <li>学習が順調に推移している上位生向けの構成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の地名など、本来は夏までの課題が未完了なら、この冬期講習中に補強すべき。</li> <li>5年生に入る前に問題点を修正、改善する貴重な機会として活用するのが賢い使い方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総復習と5年の先取りを行うため、表面的な確認で終わる危険性がある。</li> <li>5年生の進度は速いので、講習の単元以外でも苦手なものは家庭で復習しておく方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏以降の復習テストで出来が悪かった単元を重点補強する。</li> <li>講習会だけでは単元に偏りが出るので、5年に向けて土台作りをするなら、4年生カリキュラムの総復習をこの時期に行っておく。</li> </ul>
5 年 生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数は重要単元の復習および応用学習。授業テンポが速い。</li> <li>国語は「随筆」の比重が増え、理科は表やグラフの読み取りを交えるなど、実践的な内容。</li> <li>社会は近現代史を扱い、地理は出てこない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数は入試頻出単元を総ざらいする内容。扱う単元数が多いので授業ごとにテーマが変わり、慌ただしさがある。</li> <li>国語、理科は9月以降の内容を復習する。テキストが網羅的ではないので家庭での補いが必要。</li> <li>社会は歴史単元の総復習。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修の「冬期講習」と、選択の「トレーニング算数国語講習」の2本立て。Sコース生は別扱いで講習が組まれる。</li> <li>5年単元のうち特に重要な問題を振り返る。基本の冬期講習は4日間と短く、体系的な復習ではない。</li> <li>選択講座の算数はドリル演習、国語は記述練習。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習分野を問題演習中心に復習する。</li> <li>算数は入試頻出単元。図形、比、速さその他の文章題を扱う。</li> <li>国語は知識と解法のインプットによって入試問題への対応力強化を目的にする。</li> <li>浜学園では、理社は小6の日曜志望校別特訓を意識して講義とテストがセットになっている。</li> </ul>
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期の復習ではなく、1月以降の学習につなげる講座と理解する。</li> <li>6年生の学習を意識して問題難度も授業速度も上がる。</li> <li>社会は歴史しか扱わないにも関わらず、1月組分けでは地理と歴史が5.5で出題される点に注意が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの科目も入試の重要単元であり、講習中にじっくり復習する機会をもつのが望ましい。</li> <li>復習内容のため、授業は基本事項の解説なしに演習中心に進みがち。基本の復習は講習前にすませておく。</li> <li>地理の復習を別途行えば1月以降の公開対策になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の学習はかなり早いペースで進んできているので、冬期に基本の復習で理解の土台を作る。</li> <li>選択講座の受講は、演習量を確保したいかどうかで決める。</li> <li>講習会で復習できる単元が何かを確認し、家庭学習計画を立てることが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年の志望校別特訓のコース資格を取得するために、志望校判定模試や公開テストの対策が必要になる。講習中に苦手分野の補強を進める。</li> <li>授業形態に慣れることで小6日曜志望校別特訓の準備ができる。</li> </ul>
6 年 生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要単元を総復習し基礎固めを行う講座。</li> <li>難関校を意識した内容なので、基本知識の確認より演習に力を入れている。</li> <li>理社の時事問題指導はかなりレベルが高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直前特訓授業「合格カファイナル」の一環。重要単元を網羅的に扱う構成で進む。</li> <li>クラス帯に応じてテキストは3段階に分かれ、設定難度にかなり差がある。</li> <li>基本固め用のプリントが多数配られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル別に分かれて、入試で必須の知識確認と入試問題演習を重ねる講座。</li> <li>オプションの正月特訓は実戦演習。</li> <li>領域別に基本事項確認を行って、知識の穴をつぶしていく構成になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試直前対策授業の一環として授業が進む。半強制的の自習時間を含めればほぼ一日中塾に滞在することとなる。</li> <li>志望コースによって実施される校舎が指定されるため、立地によっては通塾負担が増す。</li> </ul>
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>難関校を受験する生徒にとっては網羅的に単元確認を進められ、効率が良い。</li> <li>一般校を受験する生徒の場合は、家庭学習時間を確保して、過去問対策を行った方が良い場合もある。</li> <li>与えられる知識量が多いので受験校に応じて取捨選択が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試の定番問題をランダムに演習していくので、何を復習するのかは見極めが必要。</li> <li>「合格カトレーニングプリント」は知識確認に便利だが、受験校の入試傾向に合わない場合は取捨選択することが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座での知識確認が、受験校の入試傾向をどの程度カバーするかを確認し不足は家庭学習で補う。</li> <li>授業時間がかなり長いので、時間のやりくりについては事前に計画立てしておく。</li> <li>受験校対策が不十分なら正月特訓は回避する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習を繰り返す講座の特性上、扱われる単元には偏りが出ることには注意する。</li> <li>塾での滞在時間が増える分、家庭学習時間は確保しにくくなるため、個別の対策は冬期前に進めておくことが望ましい。</li> </ul>